

## 平成21年度実施 地域ICT利活用モデル構築事業 成果報告書

実施団体名 石川県金沢市

事業名称 ICTを活用した図書館子ども育成推進モデル事業

## 1. 事業実施概要

本市の地域課題である「次代を担う人材育成の推進」のため、ICTの利活用を通じて、その解決を促進するものである。19年度から21年度に掛けての3ヶ年により、①子どもの読書環境の整備 ②子どもの地域との交流促進 の取組を実施する。

本市では、旧日本たばこ産業株式会社金沢支店の建物を利用し、20年秋に開設した玉川こども図書館を「たくさんの子どもが本に親しめる拠点」「親子で楽しく学んで、活動する拠点」等のコンセプトのもと、市全域からの子どもや親子の利用を対象とし、読書と様々な学習体験を提供する施設としており、このこども図書館において、ICTの利活用により上記のコンセプトを実現し、図書館機能の充実と新しい図書館サービスの提供を図ることとしている。

## 2. 目標の進捗状況

指標	目標値	現状の数値	期末の達成見込み	計測方法・出典等
システム稼働率	稼働時間の55%以上	100%	○	開館日は常に稼働している。
図書の貸出	増加傾向を目指す	年度末統計で比較予定	○	平成20年度1日平均個人対象貸出冊数1,057冊
デジタル絵本システム利用により、原作等を読みたいなど読書意欲の高まった者の割合	利用者の75%以上を目指す	アンケート未実施	○	利用者アンケートを実施する。
インフォメーションシステムによる地域情報発信状況(利用地域団体の増加と子どもの地域活動への参加機会の増加)	地域情報掲載件数:月30件以上を目指す 情報提供地域団体数:年30団体以上を目指す	地域情報:月15件 情報提供団体:38団体	○	システム掲載実績

## 3. 達成見込みが△又は×の場合はその理由

## <委託業務説明書>

### 1 平成21年度事業実施において明らかとなった課題

デジタル絵本システムの一環で導入したパソコン機器を活用して年度計画のとおりパソコン講習を実施しようとしたところ、ネットワーク上の各設定の都合上、個々のパソコンの頻繁な機器調整が必要となった。

### 2 自律的・継続的運営の見込み

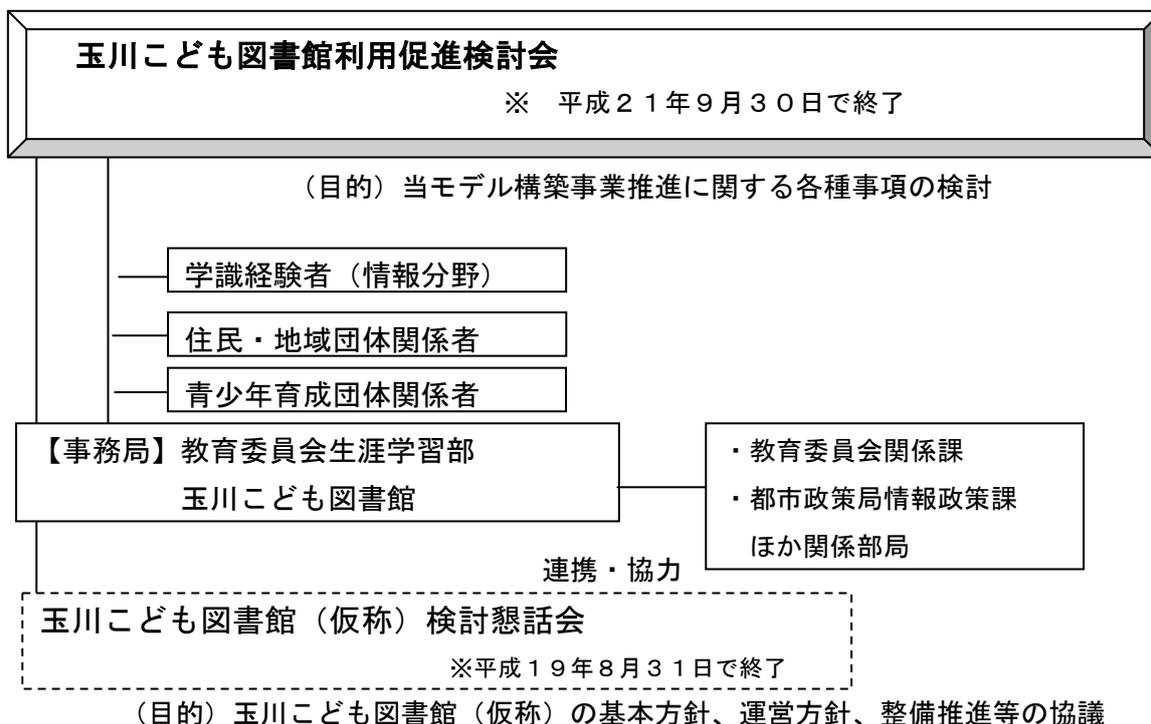
事業終了後は、機器賃借料、保守委託料が主な経費であり、継続的運営可能な範囲である。

### 3 今後の展開方針

子どもの読書への興味を増進するため、デジタル絵本システムを活用した絵本作成講座等の自主事業の実施や、子どもの地域との交流促進のため、子どもが地域のことに関心を持てるような情報をインフォメーションシステムで一層発信することに取り組む。

<実施体制説明書>

1 実施体制



2 各主体の役割

No.	氏名・団体名	役 割
1	飯島 泰裕 (青山学院大学社会情報学部教授)	学識経験者 (情報分野) システム構築・運用・設備・機器の導入等に対する助言等
2	小島 宗能 (ICビジネスプラザ武蔵館長)	学識経験者 (情報分野) システム構築・運用・設備・機器の導入等に対する助言等
3	山本 由美 (みらい子育てネット金沢市地域活動連絡協議会会長)	住民・地域団体関係者 地域ICTと子どもや住民の関わりについての助言等
4	横田 幸子 (フリーキャスター)	住民・地域団体関係者 地域ICTと子どもや住民の関わりについての助言等
5	大村 明雄 (財団法人金沢子ども科学財団事務局長)	青少年育成団体関係者 子どもの科学体験学習や情報教育に対する助言等
6	香村 幸作 (金沢市子ども会連合会会長)	青少年育成団体関係者 子どもの健全育成のあり方についての助言等

事業実施進行表

実施内容	H21					H22							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月 (予定)	1月 (予定)	2月 (予定)	3月 (予定)	
利用促進検討会 開催						△							
パソコン教室の 実施				△	△				△	△	△	△	
システムの調整 (設定調整)					→								
利用者アンケート の実施											→		
システム稼働	→												
報告書作成								→	→				
								中間 報告 書	成 果 報 告 書				

その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

[ 1 ] <http://www.lib.kanazawa.ishikawa.jp/kodomo/index.html>

## 平成21年度地域ICT利活用モデル構築事業 システム設計書

実施団体名：石川県金沢市

事業名称：ICTを活用した図書館子ども育成推進モデル事業

## 1 概要

「デジタル絵本システム」は、絵本や本に興味を持つきっかけをつくり、親子でも一緒に読めるように、パソコン画面上でデジタル化された絵本を読むことのできるシステムである。また、デジタル絵本作成ツールにより自らデジタル絵本を制作することも可能である。

「インフォメーションシステム」は、図書館内外の各種案内をクライアントサーバ方式により電子表示板に配信・表示するシステムである。図書館外2箇所にもネットワークにより情報を表示でき、地域情報を案内して地域交流促進に寄与している。

## 2 運用結果

2つのシステムの内、インフォメーションシステムは年末年始を除く毎日、デジタル絵本システムは、図書館開館日毎日活用され、子どもの読書・地域交流を促進している。

2つのシステムの内、インフォメーションシステムは自館情報だけでなく地域行事予定も発信し、年間で40以上の団体・個人によるイベントを案内した。また、インターネットに接続し調べ学習用に設置したパソコンは子ども達に数多く利用されている。デジタル絵本システムは、1日平均39回の利用があり、土曜・日曜、祝日など来館者の多い日には更に多くの利用者があった。

## 3 課題・改修の必要性

インフォメーションシステムで配信する地域情報が、募集しても十分に集まらないことがあり、効果的な情報収集が今後の課題である。また、調べ学習を主目的としたインターネット用パソコンで、ゲームをするなど目的外利用があり、システム技術面での制限と人的な指導の両面で規制を強化していくことが課題となっている。

またデジタル絵本システムでは、デジタル絵本の作成ツールの利用をいかに伸ばすかが課題である。

## 4 その他

総務省による地域情報プラットフォームへの準拠が可能なものとなっている。